

厚生科学研究費補助金（生活安全総合研究事業）  
分担研究報告書

日本人正常男性の生殖機能に関する総合的研究  
—妊婦のパートナーを対象とした全国調査(大阪地区)—

分担研究者 奥山 明彦 大阪大学大学院医学系研究科 教授  
研究協力者 松宮 清美 大阪大学大学院医学系研究科 講師

**研究要旨** 内分泌かく乱物質が男性生殖機能に影響するとされているが、ヒトに関しては結論を得ていない。しかしながら、その解析のために必要な日本人男性の正常生殖機能は今までほとんど報告がなく、本研究で明らかにしようとするものである。健康な日本人男性の生殖機能について詳細に解析しその健康状態を明らかにする目的で、国際調査の一環として共通のプロトコルで妊孕能を有する男性を対象とした生殖機能調査を進行中である。

**A. 研究目的**

本研究では自然妊娠した女性のパートナー、すなわち妊孕能を有すると考えられる正常男性の生殖機能について精液所見、精巣サイズ、血中ホルモン濃度、そしてカップルからのライフスタイルや健康にかかわる情報を分析し、現在における正常男性の生殖機能のデータベースを作成することである。さらに、すでに本調査が行われているデンマーク、スコットランド、フランス、フィンランドなどのヨーロッパ諸国のデータと比較して相違が存在するのか、その原因は何かを明らかにしたい。

**B. 研究方法**

研究対象者は大阪大学医学部附属病院産婦人科あるいはその関連施設で妊娠が確認され、診察を継続しているカップルであつ

て、条件として、1. 男性パートナーが20-44歳、2. 精液検査と採血は妊娠16週から出産までの間、3. 自然妊娠であること、4. 対象者とその母親が日本で出生したことである。妊婦は質問表に回答するのみ、男性パートナーは質問表のほかに、泌尿器科診察、精液検査、採血を行う。精液検査は共通した手順にて当施設で行い、質問表、精液、血液サンプルはフランスとデンマークで一括解析を行う。

**C. 研究結果**

平成11年度は2月29日の時点で74カップルの調査を終えた。大阪地区におけるパンフレット配布枚数は1206名、説明人数は508名(42%)、参加者総数は80名(予約6名を含む)(15.7%説明人数)であった。参加者の割合は主任研究者で施行された時の

ものと同様であった。また、主任研究者施設の指導のもとに定期的に精液検査の精度管理を施行した。

#### D. 考察

このような調査に当たっては、1. 対象者の選び方、2. 精液検査結果の精度管理は、結果の解析に当たって決定的に重要であることは明らかである。平成 10 年度に精度管理と対象者の公募方法の策定に十分な準備を行い、共通のプロトコルを用いて参加者を募った。大阪大学医学部附属病院産婦人科だけでは多数の参加者を望めないため、関連 4 施設にもコーディネータを派遣している。参加率は主任研究者施設で施行したものと同様であり、参加者募集については機能しているものと考えている。また、主任研究者施設の指導のもとに精液検査の精

度管理が行われており問題なく調査を進行している。

#### E. 結論

大阪地区において日本人健常男性 74 名の、調査を行った。

#### F. 研究発表

なし

#### G. 知的所有権の取得状況

##### 1. 特許取得

なし

##### 2. 実用新案登録

なし

##### 3. その他

なし